

令和 4 年 5 月 31 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K13564

研究課題名（和文）匈奴形成期における交流に関する研究

研究課題名（英文）Research on exchanges during the Pre-Xiongnu period

研究代表者

松本 圭太（MATSUMOTO, Keita）

九州大学・人文科学研究院・助教

研究者番号：00726549

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、前1千年紀前半から中頃を中心とする時期のユーラシア草原地帯東部の交流復元を、青銅器の分析を基礎に行った。結果、前8～7世紀頃のウラルからカザフスタンにおいて、青銅器生産に関わる新たな技術が発生し、それが前6～5世紀頃のモンゴルや北中国へ拡散する状況が確認された。これは、草原地帯のスキト・シベリア文化の拡散について、新たなモデルを提供するほか、同時期の中国中原の文化変化を考える上でも、極めて重要な示唆である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

前1千年紀の半ば頃のユーラシア草原地帯東部では、多様な交流や変化が指摘されてきたが、当該地域全体についての歴史動態は明らかではなかった。本研究では、主に青銅器の検討から、前8世紀以降、草原地帯東部で独自の新伝統が生まれ、それが広がっていく過程を明らかにした。こうした変化が、中国中原における領域的統合と、時間的にほぼ併行している点を考慮した場合、当該期のユーラシア東部全体の変化において、草原地帯は極めて重要な役割を担っていた可能性がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, a reconstruction of exchanges in the eastern Eurasian steppe during the first half to the middle of the 1st millennium BCE was carried out on the basis of the analysis of bronzes. The results confirm the emergence of new technologies for bronze production in the Urals and Kazakhstan in the 8th-7th centuries BCE, and their diffusion to Mongolia and North China in the 6th-5th centuries BCE. This provides a new model for the diffusion of Scytho-Siberian cultures in the Eurasian steppe, and is also important for considering the cultural changes in the Central Plain of China during the same period.

研究分野：考古学

キーワード：ユーラシア草原地帯 スキタイ 匈奴 青銅器 初期鉄器時代 前1千年紀 東西交流 シルクロード

1. 研究開始当初の背景

ユーラシア草原地帯東部に広汎な政治的勢力として最初に現れるのは、匈奴である。このことは、東アジアにおいて、中原と長城以北という明確な政治的対立構造が完成する画期的な出来事であった。しかしながら、前1千年紀初頭のいわゆるスキタイ期から、匈奴が草原地帯のどこで、どのような背景の下で成立したかについては、考古学的には不明な点が多い。ただし、先学においては、前1千年紀の半ばを中心に、物質文化の大きな流れが幾つか示されていた。例えば、Bunker (1988) や宮本 (2014) は青銅製帯飾板が長城地帯から北へ拡散したと考えた。一方で、西方からの影響を指摘する意見も存在する。東アジアにおける蠟型技法を、西アジアから草原地帯経由で考える見解 (蘇栄誉 2011、丹羽 2013) もその一つである。また、前7世紀～前3世紀頃の長城地帯が西方からの影響を受けることも指摘されている (楊建華ほか 2016)。前1千年紀半ばを中心とする変化は、モンゴリアを隔てた南シベリアのミヌシンスク盆地やトゥバでも指摘されている (Членова 1967 など)。

2. 研究の目的

上述のように、前1千年紀のユーラシア草原地帯東部においては、多様な交流の存在が既に指摘されている。しかしながら、先学において指摘される影響の方向には、互いに矛盾するものが含まれていた。また、先学の対象は、長城地帯や南シベリアといった草原地帯のそれぞれの地域を中心とするものであって、草原地帯東部全体が統合的に捉えられているわけではないこと、さらに、交流の内容や背景にまで踏み込めていないことが問題として挙げられた。そこで、本研究では、当該期の草原地帯東部の交流を、統一的視座の下で把握し、その背景を追求することを目的とした。

3. 研究の方法

草原地帯東部の交流動態を統一的に把握する資料としては、分布の偏りが比較的少ない、金属器、特に保存状態の良い青銅器が適している。これら青銅器を集成し、特に重要なものに関しては、各国の所蔵機関 (東京国立博物館、ミヌシンスク博物館、モンゴル科学アカデミーなど) で実見観察を行った。これらの情報を基に、製作技法を一定程度復元しつつ、技術系統とその変化を追跡し、青銅器技術に関する交流復元を行った。

4. 研究成果

特に重要な成果として以下が得られた。

(1) 青銅刀子の検討結果① (主に松本 2020b)

草原地帯東部から多く出土する青銅刀子を、統一的指標分類し、その動態を追った。結果、青銅刀子に基づくと、草原地帯東部の前1千年紀前半は3段階に区分できる。前8世紀以前は、南シベリアの影響によって草原地帯東部全体が斉一化している段階であり、前8世紀から前6世紀にかけて各地で徐々に地域性が現れる。この段階では、各地は独自性を保ちつつ、緩やかに結ばれており、長城地帯では中原の影響も認められる。さらに前6～前4世紀には、新たな技術・デザイン伝統を伴った型式が、南シベリアからモンゴリア・長城地帯に拡散し、草原東部は再び斉一化する。この斉一化は、学史上指摘されていた草原地帯東部各地の変化に相当し、互いの有機的関連が明らかとなった。また同時に、長城地帯と中原の関係が前段階 (前8-6世紀) より希薄になっている状況が認められた。これらの背景として、草原地帯東部で独自の集団再編成が行われていた可能性を示唆した。

(2) 青銅器刀子の検討結果② (主に松本・飯塚・鈴木 2021)

(1)の動態は、青銅刀子の形態に基づいて、考古学的に導かれた結果であるが、青銅器の素材である金属成分の検討を共同研究の形で行った。最近報告された木村武山コレクションにおける長城地帯に由来すると考えられる青銅刀子について、型式学および理化学的分析 (化学成分分析) を行い、採集品資料の分類と議論を試みた。結果、前8世紀頃を境に、鉛を中心とした成分に大きく変化がみられることが示された。これは、ユーラシア草原地帯における初期遊牧民文化 (スキタイ系文化) の開始より少し遅れ、鋳型の形成法を基礎とした型式分類による画期とも一致せず、従来見過ごされてきた大変化である。ほぼ同時期には、中国で貴金属や鍛造鉄器が盛行し始めることを考慮すると、本変化は東アジアにおける鉄器時代開始を考えていく上で、極めて重要な文化動態を示唆している可能性がある。

(3) 帯金具の検討結果 (主に松本 2020a)

前1千年紀の草原地帯東部においては、多様な金具類が認められるが、中でも小型帯金具については、先学では中原起源、南シベリア起源など相反する説が知られていた。それらを方法的に再検討した上で、紋様の製作技法に着目し、型式変遷と起源の客観的明示を試みた。結果、これらの小型帯金具が製作技法上2種 (A類、B類) に区分でき、両者が異なる系譜を持つことが明らかになった。A類は、可塑性の低い範模素材が利用された可能性があり、前7世紀後半のウラルから南シベリアに広がる「判じ絵」(загадочная картинка) を起源と

するものである。一方で B 類は、可塑性の高い原型素材によるもので、グリフィンの意匠を持つものである。これらは、前 9 世紀以降のユーラシア草原地帯に広がっていた一般的な技法や意匠要素に由来するところが大きい。伝統的技法による B 類が分布する中、A 類は前 6 世紀から前 5 世紀頃、南シベリアからモンゴリア、長城地帯に拡散する。この背景として、当該期の草原地帯東部全体に人の移動を含めた何らかの大きな変化が起きていた可能性を指摘した。

(4) まとめ

(1)~(3)の成果をまとめると、前 1 千年紀のユーラシア草原地帯東部において匈奴が出現してくる背景となる時期では、以下のような交流の変化を段階的に追うことが出来る。

前 2 千年紀末には、ミヌシンスク盆地から一連の技術伝統が、ユーラシア草原地帯の東西に拡散する(松本 2018)が、これが前 1 千年紀の動態のすべての基礎である。

前 9-8 世紀頃までこの伝統が継続し、ミヌシンスク盆地でタガール文化、長城地帯では夏家店上層文化など、各地で在地化し、地域性を出現させていく。

このような地域性が次第に濃くなる一方で、各地において、従来の中心地とはやや異なる場所で独自の技術開発が行われるのが、続く前 7-6 世紀頃である。ウラルからカザフスタンでは、いわゆるサカと呼ばれる集団にあてられるような物質文化が発生するが、この中には刀子や帯金具の新型式が含まれており、これらの型式は、従来とは異なる技術で作られたものであった。長城地帯でも、河北地域を中心にした玉皇廟文化、甘粛・陝西地域を中心としたいわゆる春秋秦にあてられる物質文化が顕著になる。これらの地域も、ウラルからカザフスタンと同様、この時期以前は青銅器文化が比較的盛んでなかった。また、青銅刀子の金属成分が大きく変化し、鉄器が一定量出現し始めるのもこの時期である。

そして、前 6-5 世紀頃、上記のうちウラルからカザフスタンで発生した伝統が、草原地帯東部全体に拡散し、齊一的様相を示すようになる。興味深いのは、この段階の直後に月氏や匈奴などの、中原と対峙するような諸集団が、歴史書に出現するほか、万里の長城の建設が行われ始めることである。すなわち、ユーラシア草原地帯における新伝統の出現と拡散の時期は、中原の都市国家が領域的に統合され、秦や漢といった中原における統一的政治勢力が形成されていく時期とほぼ同じなのである。ユーラシア草原地帯と中原を含んだ、ユーラシア東部全体を視野に入れた検討が、当該期の歴史動態解明にとって極めて重要であることを示唆し、本研究の成果とするものである。

【引用文献】

蘇栄誉 2011 「中国古代失蠟鑄造 - 兼論青銅器技術研究方法論(摘要)」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』5 pp.25-26

丹羽崇史 2013 「中国周辺地域における出現期「失蠟法」の比較検討」『FUSUS』6 pp.61-76

松本圭太 2018 『ユーラシア草原地帯の青銅器時代』九州大学出版会

松本圭太 2020a 「初期遊牧民文化における青銅刀子の展開」『中国考古学』第 20 号、pp.109-150

松本圭太 2020b 「前 1 千年紀中葉における初期遊牧民文化の変容：ユーラシア草原地帯東部の小型帯金具を素材として」『考古学雑誌』第 103 巻 1 号、pp.36-83

松本圭太・飯塚義之・鈴木舞 2021 「内モンゴ・長城地帯における青銅刀子の型式と金属化学組成：木村武山コレクションの調査を基礎に」『中国考古学』第 21 号、pp.55-71

宮本一夫 2014 「北方系帯飾板の出現と展開」『ユーラシアの考古学』pp.49-63、六一書房

楊建華、邵会秋、潘玲 2016 『欧亚草原東部的金属之路』上海古籍出版社

Bunker, E. 1988 Lost Wax and Lost Textile: An Unusual Ancient Technique for Casting Gold Belt Plaques, *The Beginning of the Use of Metals and Alloys*, MIT Press, pp.222-227

Членова, Н.Л. 1967 Происхождение и ранняя история племен тагарской культуры. Наука, Москва.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 6件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 松本圭太, Amgalantugs Tsen, Ishtseren Lochin	4. 巻 -
2. 論文標題 モンゴリアにおける青銅刀子の形態変遷 モンゴル国における青銅器調査に基づく分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩永省三先生退職記念論文集 持続する志	6. 最初と最後の頁 637-658
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松本圭太	4. 巻 103-1
2. 論文標題 前1千年紀中葉における初期遊牧民文化の変容 : ユーラシア草原地帯東部の小型帯金具を素材として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 考古学雑誌	6. 最初と最後の頁 36-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本圭太	4. 巻 20
2. 論文標題 初期遊牧民文化における青銅刀子の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 109-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Keita	4. 巻 8-2
2. 論文標題 The Bronze Age in the Eurasian Steppes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Archaeology	6. 最初と最後の頁 287-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本圭太	4. 巻 238
2. 論文標題 草原地帯における青銅武器の発達	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 171-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村大介・松本圭太	4. 巻 238
2. 論文標題 大興安嶺からアルタイ山脈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本圭太	4. 巻 729
2. 論文標題 スキタイ系文化における交流の変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 31-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本圭太	4. 巻 -
2. 論文標題 蝶形金具再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第21回北アジア調査研究報告会要旨集	6. 最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本圭太、Amgalantugs Tsend、ISHTSEREN Lochin	4. 巻 7
2. 論文標題 モンゴル国ウムヌゴビ県、ドンドゴビ県博物館所蔵青銅利器とその位置づけ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 横浜ユーラシア文化館紀要	6. 最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumoto, K	4. 巻 -
2. 論文標題 Diversity or uniformity in the Eurasian Steppes in the beginning of the Early Nomadic Cultures.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 46-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Miyamoto, Yoshinori Tajiri, Keita Matsumoto, Tsend Amgalantugus, Natsag Batbold, Dashzeveg Bazargur and Lhagvadorj Delgermaa,	4. 巻 -
2. 論文標題 Excavations at Emeelt Tolgoi Site.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Excavations at Emeelt Tolgoi Site.	6. 最初と最後の頁 3-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名	4. 巻 17-1
2. 論文標題 《 》.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 -	6. 最初と最後の頁 3-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本圭太・飯塚義之・鈴木舞	4. 巻 21
2. 論文標題 内蒙古・長城地帯における青銅刀子の型式と金属化学組成：木村武山コレクションの調査を基礎に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国考古学	6. 最初と最後の頁 55-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松本圭太・飯塚義之・鈴木舞	4. 巻 70
2. 論文標題 木村武山コレクションにおける中国北方系青銅器	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学習院大学 東洋文化研究所 調査研究報告	6. 最初と最後の頁 49-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松本圭太	4. 巻 16
2. 論文標題 古代ユーラシアの草原から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 工芸青花	6. 最初と最後の頁 81-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto K., Amgalantugs T., Ishtseren L.	4. 巻 -
2. 論文標題 A survey of Bronze and Early Iron Age tools and weapons from Northern Mongolia.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ancient Cultures of Mongolia, Southern Siberia and Northern China.	6. 最初と最後の頁 329-341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 松本圭太
2. 発表標題 北方系刀子の形態変遷
3. 学会等名 日本中国考古学会2020年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本圭太
2. 発表標題 前1千年紀における北方系刀子の分類とその成分に関する予察
3. 学会等名 日本中国考古学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本圭太
2. 発表標題 前1千年紀のモンゴリアにみられる青銅器製作技法の変化について
3. 学会等名 九州史学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本圭太
2. 発表標題 蝶形金具再考
3. 学会等名 第21回北アジア調査研究報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本圭太
2. 発表標題 前1千年紀の草原地帯東部における青銅刀子の動態
3. 学会等名 草原考古研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keita MATSUMOTO
2. 発表標題 the emergence of 'the Early Nomadic Culture' in the Eurasian Steppes.
3. 学会等名 Eighth Worldwide Conference of the SEAA (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keita MATSUMOTO
2. 発表標題 ?
3. 学会等名 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本圭太
2. 発表標題 前1千紀の草原地帯東部和中国初期鉄器
3. 学会等名 中日考古学論壇 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本圭太
2. 発表標題 モンゴル国北部、南部における青銅器調査
3. 学会等名 日本中国考古学会九州部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keita MATSUMOTO
2. 発表標題 The Karasuk battle axes and the Ge Dagger axes
3. 学会等名 Peoples and Cultures of the Sayan-Altai and Bordering Territories (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsumoto K., Angalantugs T., Ishtseren L.
2. 発表標題 A survey of Bronze and Early Iron Age tools and weapons from Northern Mongolia.
3. 学会等名 XI International Scientific Conference "Ancient Cultures of Mongolia, Southern Siberia and Northern China (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsumoto K.
2. 発表標題 ;
3. 学会等名 The international symposium of Khakass epic, peoples and cultures of the Sayan-Altai and bordering territories (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本圭太・飯塚義之・鈴木舞
2. 発表標題 木村武山コレクションにおける中国北方系青銅器とその化学分析
3. 学会等名 草原考古研究会例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本圭太
2. 発表標題 秦式剣とアキナケス
3. 学会等名 日本中国考古学会大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 松本圭太	4. 発行年 2018年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 368
3. 書名 ユーラシア草原地帯の青銅器時代	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

モンゴル	モンゴル科学アカデミー考古学 研究所			
ロシア連邦	ハカス言語文学歴史研究所	ミヌシンスク博物館		
その他の国・地域	台湾中央研究院			